

「増田大臣とのくるまぎ対話in沖縄」議事概要

1 日 時 平成20年7月3日(木) 9:30~11:30

2 場 所 沖縄県八重山支庁2階 大会議室
沖縄県石垣市字真栄里438-1

3 出席者

(1) 沖縄県側

大 浜 一 郎	株式会社石垣エスエスグループ代表取締役社長
大 濱 長 照	石垣市長
大 盛 武	竹富町長
砂 川 拓 也	さとうきび、葉たばこ生産農家
宮 平 康 弘	宮平観光株式会社代表取締役社長
山 城 まゆみ	パイン、さとうきび生産農家

(2) 国側

増 田 寛 也	総務大臣・地方再生担当大臣
上 西 康 文	内閣官房地域活性化統合事務局長代理
岡 崎 浩 巳	総務省大臣官房総括審議官

4 懇談会次第

(1) あいさつ

- ① 増田 寛也 総務大臣・地方再生担当大臣
- ② 大濱 長照 石垣市長

(2) 意見交換

<テーマ>

- ・ 地方再生・地域活性化について
- ・ 地方行財政・地域経済の諸課題について

5 懇談会要旨 [主な意見]

① 地元出席者側

- ・ 農産物を作っても、価格の上昇がないのに輸送費は増えていく。離島の苦しみが、こういう面で顕著にあらわれている。地方、離島への支援をお願いしたい。
- ・ 台風で通信網が破壊されると、パソコンが1週間から2週間使えなくなるため、電線類の地中埋設化など大きな課題だが、事業費が大きく、なかなかうまくいかない。
- ・ 離島には常に医療・教育問題がつきまとう。中長期的に医師を離島の隅々まで配置して

いくことが、重要な課題である。

・大学がないので、沖縄本島あるいは本土等含めて、高校卒業後に島を出て行く状況になっているが、東京や大阪に出ると、家庭の経済負担が大変大きい。子供1人を東京や大阪の大学に入学させるだけでも親の負担は大変重いが、2人、3人となると、一家が破滅するぐらい大きな負担になる。教育に関する支援をお願いしたい。

・西表島に診療所はあるが、小児科、婦人科のような専門的なものは、診療所では間に合わず、船で石垣島まで出てくることになるが、子供が風邪をこじらせて発熱したときでも通院ができず、入院となり1週間くらい家に帰れない。医療、交通に関しては、東京では味わったことのない離島苦を感じている。

・石油も枯渇に向かっているので、植物を使った代替エネルギーを開発したいと思っている。知恵や力を貸していただきたい。

・西表島は、世界自然遺産という世界の宝を目指している。地元の宝だけではなく、国の宝でもあるはずなので、ここを環境教育の先進地として、次世代環境教育に取り組んでいただきたい。

・朝一便で来て、昼食後には島を出て行く観光客が多い。エコツーリズムなどに移行してこの状況を改善しなければならない。観光を滞在型にするための人的支援、資金的協力をお願いしたい。

・農産物価格の中に環境税的なものを入れ、商品を多く売れば、赤土を防止したり、環境保護活動をしている人に補助ができるというような環境活動を支援する仕組みを作り上げていただきたい。

・台湾のクルーズ船からの観光客は増加しているが、本土からの観光客が減少していて厳しい状況である。東京から遠い島なので、ハッピーマンデーによる連続休暇は観光客増加の効果があった。連続休暇、年休取得の拡大策を政府としても取り組んでもらいたい。

・離島観光のシンボルとなるような、海に親しむ施設を整備していただきたい。沖縄本島には美ら海水族館、首里城公園、デューティーフリーショップ、国営の観光の目玉となる施設がある。離島観光は苦しんでいるので、目玉になるような、海に関連するような施設の整備を検討いただきたい。

・台風時に海岸への漂着ごみが多い。きれいなビーチは多いが、大陸からのごみが多い。大陸からのごみを掃除するのは、地元だけでは難しい。全国的な課題として漂着ごみなど環境対策をお願いしたい。

・観光業にとって専門的な技能を有した人が不足している。人材の教育、技能研修、先進地交流など、地元でも研修ができるようなシステムができれば、地域の観光の質が上がると思う。

・賃金を上げて、安心して働ける職場をつくるのが、業界、経営者として大事なことだと思う。賃金のアップがなければ、地元に着して働けないと思うので、行政としても後押しをしてもらいたい。

・ガソリン高騰の問題について、抜本的な改革支援策が必要だと思う。企業が疲弊して、壊滅寸前である。投機的資金の規制など抜本的な対策を早急をお願いしたい。航空、船舶、バス・タクシーの交通体系の維持ができないと、観光、生活にとって壊滅的な状況になる。

②国側

- ・原油高なども含めて、離島でかかる経費について、財政需要を図っていきたい。
- ・沖縄では「頑張る地方応援プログラム」の中で、北大東島に地域力創造アドバイザー、南城市には総務省職員の派遣を行っている。人材育成が大事なので、力を入れていきたい。
- ・医師不足解消のため、医学生の定員を増やす方向に動いているが、成果が出るには10年以上かかる。女性医師が働きやすい職場環境を作り、職場復帰できない人たちの職場復帰を増やしていくなどの取組が必要だと思っている。
- ・内閣官房では、「地方の元気再生事業」を今年から始め、地域住民や団体の方の様々な試みを支援している。沖縄の島嶼部からも環境に配慮したツーリズムの推進、近隣諸国との交流等の提案をいただいている。今月中には具体的に支援をするプロジェクトを決めて、国としても地元のプロジェクトを支援していく。
- ・漂着ごみについては、環境省が中心になって取り組んでいるが、民間のNPO等、この問題に取り組んでいる方々と協働しながら、取り組んでいきたい。
- ・離島では原油高等があって、交通の問題は大きいと思う。地方再生の中で継続的に考えていきたい。
- ・離島関係の交付税等も充実させなければならない。地域において様々な財政需要をできるだけ反映させたい。
- ・公立病院については、研究会を設置して、公立病院への財政措置の充実等を検討することとしている。秋までに結論づけたい。
- ・地元の食材をできるだけ、地元で消費することは、子供たちの食育の観点からも大切であり、政府としても進めていきたい。

6 現地視察

視察① 第一牧志公設市場（那覇市）

旧盆や旧正月は地元客でにぎわっているが、近年、観光スポットとして注目を集め、来客者数の多く（約7割）を観光客が占めているともいわれ、市場機能を維持し、地元客でにぎわう昔ながらの市場再構築に向け、官民共同の検討作業が急がれている公設市場を視察した。

視察② 新石垣空港建設予定地

石垣空港は滑走路が1500mのままジェット化されているため、一部の路線では重量

制限を受けるなど課題を抱えている。石垣島では島東部に中型ジェット機が離発着可能な2000mの滑走路を有する新空港を建設中であり、この建設予定地を視察した。

意見交換① 地域住民との意見交換（白保公民館）

石垣市白保は、村の伝統や村づくりの目標などを7か条で表した「白保ゆらていく憲章」をまとめ、伝統を明文化し、豊かな精神文化や農耕儀礼を地域活性化に活かす取組を行っている地区である。その白保地区で暮らす若者や島外からの移住者等から離島の生活状況について説明を受けるとともに意見交換を行った。

視察③④ 竹富島の町並み、竹富島ゆがふ館

意見交換② 地域住民との意見交換（竹富島まちなみ館）

竹富島は石垣港から船で約10分、周囲9.2km、面積5.42km²、人口330人ほどの島であるが、八重山観光のメッカとして全国的にも脚光を浴び、年間を通して多くの観光客が訪れる。竹富島の町並み及び竹富島の自然、伝統、文化等について展示する竹富島ゆがふ館の視察を行った。また、竹富島で暮らす観光関係者、1ターン者等から竹富島の状況について説明を受けるとともに意見交換を行った。

視察⑤ ゆんたく家（石垣市中心市街地）

ゆんたく家は、商店街をはじめとした地域の集会、情報の収集・発信のための施設であり、来街者へのホスピタリティー、イベントの開催等を通じて、中心市街地の新たな拠点として市街地活性化の一翼を担っている。ゆんたく家と石垣市中心市街地を視察した。

（以上）